

1/18

防災講座 in 豊頃町 開催！



大津地域コミュニティセンターでHBC 気象キャスターの近藤肇気象予報士を講師に迎え、『防災講座 in 豊頃町 気候変動はどのように起きているのか？ 暮らしのお天気から考える防災のヒント』をテーマに講演が行われました。近藤気象予報士は天気図の見方などを通して、気候変動により風水害が起こりやすくなっていることを紹介し、災害の備えが大切であることを解説しました。また非常食の試食も行われ、試食した参加者は「意外においしかった。万が一の備えにしたい」と話していました。



1/16

浦島久観光大使が札幌でジュエリーアイスの写真展



POST-O-KAN（札幌市南区）で、浦島久豊頃町観光大使が、自身が撮影したジュエリーアイスの写真展「浦島久写真展 Jewelry Ice」（POST-O-KAN 主催、豊頃町観光協会後援）が開催されました。当日は、浦島観光大使によるトークイベントやジャズピアニストである野瀬栄進氏のライブなどが行われたほか、観光ポスターの写真提供をいただいている写真家の岸本日出雄氏も会場に訪れ、とても豪華なイベントとなりました。

1/17

アイシン精機(株)テストコースで冬道の運転技術講習



湧洞沼にあるアイシン精機(株)テストコースにおいて、アイシン精機(株)・FTテクノ(株)主催による運転技術講習が実施されました。役場を含む町内にある各事業所から運転歴の浅い20代の若手職員など約15名が参加したほか、町内駐在所から3名、池田署から2名の計5名の警察官も運転技術の研鑽を深める機会として参加しました。職員らは4つの班に分かれ、テストコース内を運転し冬道の運転技術を学びました。参加者は「運転技術を改めて学ぶ機会は少ないので、この体験が一般道で生かせるよう考えながら運転できるよう努めたい」と話していました。

『報徳のおしえ』



全国報徳サミット（茨城県筑西市大会）より



パネルディスカッション

令和元年度 第25回全国報徳サミットが、令和元年11月8日に、茨城県筑西市で開催されました。筑西市は、える夢館で上映された「二宮金次郎」の映画の舞台となった栃木県真岡市（桜町）に隣接する市です。サミットでは、歓迎アトラクションのほか、基調講演、パネルディスカッション、大会宣言の採択等が行われました。基調講演では、（尊徳7代目子孫）中桐万里子氏が「教育者、金次郎」の行動哲学「下館藩（現・筑西市）や村々のできごとを軸として」と題して講演が行われました。その講演内容を紹介します。

【講演内容】

私の家族から聞いた話をメインに進めます。二宮尊徳は筑西市の小学校・中学校にも置かれている金次郎像でおなじみですが、私たち家族が伝えてきたこの像において最も大事なことは、「この足」、あの足が小さく一歩前へ踏み出している。そのことを家族は何より尊びました。この像はどんなことがあってもくじけず、諦

めず、自分自身の一歩を前へ踏み出して。その小さな一歩、それに本當の価値があると伝えていきます。ただし、金次郎はただ歩いているのではなく、本を読んでいる。あれにはどんな意味があるのだろうか。金次郎がああいう姿になったのは両親を失ったことが大きかったからです。16歳にして父も母も失います。そして大事な2つのものを失った。一つ目は、生き方の指針。生き方は親が教えるものだった。親を失うということは、どう生きていけばいいか、その指針を失うことでもありました。だから金次郎は手に本を持つようになったわけです。あの本はまさに父親の形見でした。父は学問を重んじ学ぶことを大切にすることを大



中桐万里子氏 講演

父が生きていたら何を伝えようとしたか探ろうとしたわけです。そして二つ目は、この時代の子どもたちが両親を失うということは、まさに経済を失うことでした。自分で働くしかない、だからこそ、薪、柴、そして労働が必要になりました。金次郎は、ただ学んでいればいいわけではなかった。常に様々なことを考えながら、どう道を進むか、どう一歩を踏み出すか、金次郎の行動は考え歩み続ける、くじけない、諦めない、そんな一歩だったわけですね。

〔中略〕

金次郎が、村々を復興させるとき何を始まりとしたか。金次郎は「考えること」を始まりとしました。下館藩（現・筑西市）でも起こりました。金次郎が復興を引き受けると必ず村のリーダー（武士や役人）たちと対話をしたわけですね。リーダーたちの力・存在は大きかったからです。『あなたは今、何に困っている？』そしてどのようなことを望んでいるのか？』と尋ねると、「自分の村は自然災害に襲われ田畑が荒れた。農民たちも疲れ果てている。希望を失っている。だから収入が減り、どんどん借金も増えている。財政難という状況。人の心が荒れている。田畑が荒れている。それが困っている。それを豊かにしたい。まちを復活させたい。これが私たちの望みだ」と、これに対して金次郎は言います。『その考えは完全に間違った考え方だ。あなたたちは現実が見えていない。しっかりと向き合っていない。農民たちが苦しんでいるのは、自然災害があったからではない。災害が起きて収入がなくなる。



筑西市 尊徳廻村之像

『武士は民の平和のために国の平和のために尽くしてきた。その民を守るために仕事をしてきた。それが武士たちのしていた仕事ではないか。あなたたちが本当にしたいことはなにか？自分の生活のために収入を得たいわけじゃない。このまちが元気になること、何を望んでいるのか。もう一度原点に戻り、「武士魂」を思い出して、一緒に考えようじゃないか』という金次郎の呼びかけでした。武士たちは自分たちののはじまりの役割を思い出したというわけです。金次郎には、あこがれの指導者がいました……

〔講演の続きは、次回（）紹介します〕

▽はるにれは見ていた 広報とよころ

議会だより

役場だより